

第5学年家庭科学習指導案

日 時 平成20年1月30日(水) 5校時
場 所 3階多目的ホール(かむり), 家庭科室
授 業 者 T1 5年3組担任 教諭 鳩原 淳子
T2 栄養教諭 岡崎 博子

1 題材名 家族とのふれあいを楽しもう～楽しい「ほっとタイム」の工夫～

2 題材の目標

- 家庭生活に関心を持ち、家族との触れ合いや団らんを楽しくしようとする。
(家庭生活への関心・意欲・態度)
- 家族との触れ合いや団らんを楽しくもてるように考えたり、自分なりに工夫したりする。
(生活を創意工夫する能力)
- 家族との触れ合いや団らんを楽しくもつことができる。
(生活の技能)
- 家族との触れ合いや団らんについて理解する。
(家庭生活の知識・理解)

3 指導にあたって

(1) 題材観

家族との触れ合いや団らんとは、家族があいさつや会話をしたり、食事や家庭の仕事を共にしたりして親しくかかわり、楽しくなごやかな時を過ごすことである。

家庭生活の中で、気持ちを伝え合ったり、触れ合う場をもったりすることは、家族の心のつながりを深める。また食生活は、家族の心身の健康を育むための大切な営みである。

そこで、団らんと豊かな食生活のつながりを理解させ、触れ合いをもつ楽しさや喜びを感じるような体験をさせたい。この体験を通して、家庭生活をよりよくしようとする態度を育てたいと考え、本題材を設定した。

(2) 児童観

本学級の児童は、男子20名、女子15名、計35名である。7月に実施した「食事と生活に関するアンケート」(全校児童対象558名)では、朝食を一人で食べる児童は6名、夕食を一人で食べる児童は3名であった。また、1月に実施した「団らんに関するアンケート」(学級児童対象35名)では、家族と過ごす時間はあまりないと答えた児童が7名いた。食を通しての触れ合いの機会をもっている家庭もあるが、触れ合う機会の少ない家庭もある。また、お茶やお菓子等を用意して家族と一緒に過ごしたことがあるかという問いに対しては、ないと答えた児童が16名いた。そこで、各家庭の実状に配慮しながら、自分の家庭に合った家族との触れ合いや団らんに意識させ、実践しようとする態度を育てたい。

(3) 指導観

本題材では、友達となごやかに過ごせる楽しい「ほっとタイム」の工夫を考えさせたい。実践的・体験的な学習活動の場として「ほっとタイム」を設定し、3人グループで、おやつやお茶、テーブルセッティング等の工夫を考えさせる。

学習にあたっては、栄養教諭が団らんと豊かな食生活のつながりを理解させ、触れ合いや団らんのよさに気付かせる。

ほっとタイムの楽しさを体験することにより、団らんの工夫をすることのよさに気付かせ、家庭での実践への意欲付けにつなげたい。

4 研究テーマとの関連

学び合う授業をつくるための教師の支援の工夫

○栄養教諭とのT・T指導

- ・児童が学習に対する理解をより深められるような栄養教諭と担任の役割分担を心がける。

子どもが本気で取り組む学習活動の工夫

○団らんと食に関する関心を高めるための実践的・体験的活動

- ・おやつやお茶を用意し、雰囲気大切に「ほっとタイム」を通して、触れ合いや団らんのよさに気づき、家庭での実践につなげられるよう心がける。

5 指導内容と評価の計画（5時間扱い）

題材名「家族とのふれあいを楽しもう」

学習指導要領の内容（1）エ

小題材名	時数	時間	指導内容	具体的評価規準
家族とのふれあいを考えよう	1	1	○家族と一緒に過ごした経験を話し合わせる。 ○家族と一緒に過ごす時間のもち方について考え、自分にできることはないかを話し合わせる。	○家族との触れ合いや団らんについて理解している。(知識・理解) 〈Aとする状況〉 ・自主的に発言 〈C状況の児童への手だて〉 ・担任・栄養教諭からのアドバイス
「ほっとタイム」を試みよう	3	1	○「ほっとタイム」の計画を立てさせる。 ○家庭にあるもので作る簡単おやつを紹介する。 (栄養教諭) ○各グループ毎に相談させる。	○「ほっとタイム」の計画を考えたり、工夫したりしている。 (創意工夫) 〈Aとする状況〉 ・明確な工夫のポイント 〈C状況の児童への手だて〉 ・具体的な計画例の提示
		2	○「ほっとタイム」を実施する。 ・おやつ作り ・テーブルセッティング ・試食 ・会話 ・後片付け	○「ほっとタイム」を楽しくもつことができる。 (技能) 〈Aとする状況〉 ・交流、会話、雰囲気 〈C状況の児童への手だて〉 ・状況に応じて個別に指導
		2 / 2	○「ほっとタイム」での体験を伝えるメッセージカードを書かせる。	○自分なりに楽しくもてるよう考えたり工夫したりしている。 〈Aとする状況〉 (創意工夫) ・団らんと豊かな食生活のつながり 〈C状況の児童への手だて〉 ・個別に支援
家族とのふれあいを楽しもう	1	1	○家庭での実践計画を立てる。	○家族との触れ合いや団らんを楽しくしようとしている。 (関心・意欲・態度) 〈Aとする状況〉 ・積極的なかわり 〈C状況の児童への手だて〉 ・担任・栄養教諭からのアドバイス

6 本時の指導

(1) 本時のねらい

○触れ合いや団らんを楽しくするための「ほっとタイム」をもつことができる。

(技能)

○「ほっとタイム」が楽しくもてるよう自分なりに考えたり，工夫したりしている。

(創意工夫)

(2) 準備物

○メッセージカード ○パソコン ○プロジェクター

(3) 学習指導過程

	学習活動	教師の支援と指導上の留意点	評価
つかむ 10分	1 本時の課題を確認する。 「ほっとタイム」を楽しもう	○T1が2つの団らんの画像を比較させ、本時の課題を確認する。 ○T2が食するときの楽しい雰囲気作りのためのヒントを伝える。 ○T1が本時の活動の時間配分と衛生・安全に関する確認をする。	
追究する 20分	2 「ほっとタイム」を実施する。 ○準備する。 ・おやつを運ぶ。 ・お茶を入れる。 ○「ほっとタイム」を過ごす。	○グループの3人が協力し合って短時間で準備できるように支援する。 ○2つのグループを一緒に、6人でのテーブルを囲ませる。 ○T1は、全グループの様子を観察し、楽しそうに過ごすグループを見取り、称賛する。 ○T2は、工夫がうまくいかないグループに入り、支援する。 ○T1は、会話が進まないグループに、きっかけとなる話題を提示しながら、個別に支援する。	○触れ合いや団らんを楽しくするための「ほっとタイム」をもつことができるか。〈技〉 (観察)
深める 10分	3 「ほっとタイム」を振り返る。	○T1がグループの様子を画像で振り返らせ、楽しくできた理由を発表し合わせる。 ○T2が「ほっとタイム」の感想を話し、児童がメッセージカードを書くときの参考にさせる。 ○「ほっとタイム」の体験の様子や家族に伝えたいことをメッセージカードに書かせる。 ○児童のメッセージカードの内容を見取る。 ○家庭の実状に配慮しながら、個別に支援する。	○「ほっとタイム」が楽しくもてるよう自分なりに考えたり，工夫したりしているか。〈創・工〉 (発表・カード)
まとめ 5分	4 学習のまとめをする。 ○家庭での実践への意欲付けを図る。 ○後片付けをする	○T1が学習課題に合ったメッセージカードを紹介する。 ○T2が触れ合いや団らんをもつときに、菓子や飲み物があるとなごやかになることを確認し、家庭での実践への意欲付けを図る。 ○食器の後片付けをさせる。	

(4) 評価

○触れ合いや団らんを楽しくするための「ほっとタイム」をもつことができる。(技能)

おおむね満足できる	<ul style="list-style-type: none">・友達と一緒におやつやお茶を味わうことができる。・会話や場の雰囲気を楽しむことができる。
努力を要する状況の児童への手立て	<ul style="list-style-type: none">・児童の様子を見取り，個に応じた指導をする。・教師がなごやかな雰囲気にするための話題を提示する。
十分満足できる状況の児童への働きかけ	<ul style="list-style-type: none">・家庭への実践に結びつくような支援をする。

○「ほっとタイム」が楽しくもてるよう自分なりに考えたり，工夫したりしている。
(創意工夫)

おおむね満足できる	<ul style="list-style-type: none">・おやつやお茶，テーブルセッティングや会話が楽しさにつながることが分かり，工夫しようとしている。
努力を要する状況の児童への手立て	<ul style="list-style-type: none">・おやつやお茶，テーブルセッティングや会話が楽しさにつながることに気付かせる。・グループの友達の考えや工夫を参考にさせる。
十分満足できる状況の児童への働きかけ	<ul style="list-style-type: none">・自分の家庭に合った団らんのもち方の工夫について，具体化できるような支援をする。